

第3章 望ましい環境像の実現に向けて

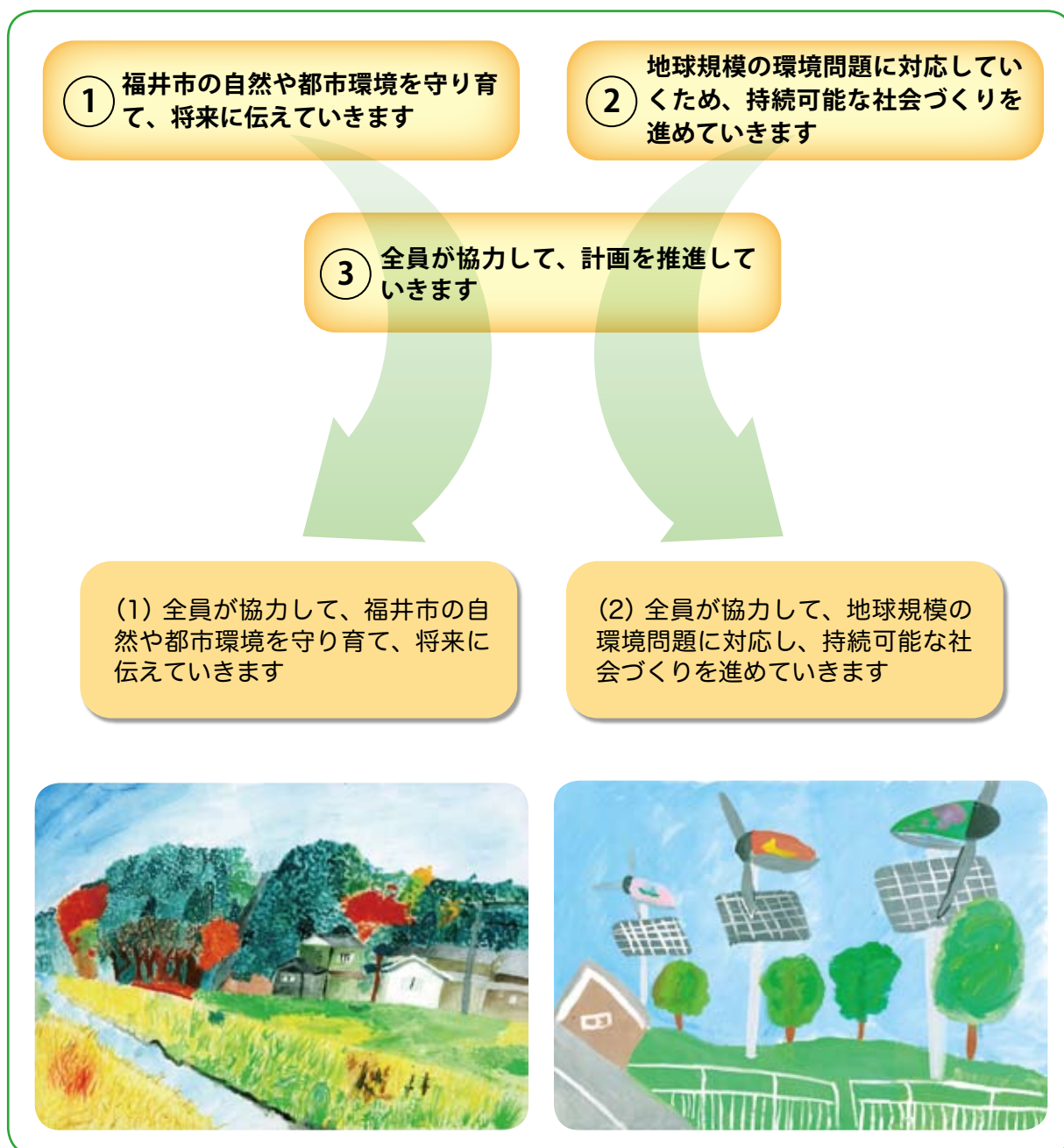
第1章では、福井市の置かれている現状や課題などを、第2章では、目指すべき望ましい環境像と取組の全体的な方向性、そして各主体の責務を示しましたが、第3章では、これらのことを踏まえ、計画を推進していくための取組の基本的な考え方や計画の体系を整理し、第4章で示す主体別取組へとつなげます。





1 取組を進めるための基本的な考え方

取組を進めるに当たって、基本的な考え方を明確にして、推進を図っていくことが重要であることから、第2章で示した三つの「取組の全体的な方向性」を下図のように整理し、二つの「取組を進めるための基本的な考え方」にまとめて示します。



(1) 全員が協力して、福井市の自然や都市環境を守り育て、将来に伝えていきます

福井市の豊かな自然を守り育て、将来に伝えるため、自然や多様な生き物から多大なる恩恵を受けていることを認識し、日々の生活や事業活動の中で環境にやさしい取組を進めていきます。例えば、地区における自然観察や、生き物の生息環境の調査・整備などの取組を進めます。

福井市の身近な空気や水などの環境を守り育て、将来に伝えるため、日々の生活や事業活動を見直し、排気ガスや排水による影響が少なくなるように努めます。例えば、空気に関しては、徒歩や自転車、公共交通機関による移動やエコドライブ※¹に努めます。水に関しては、水をできるだけ汚さない、節水するなど水の循環を意識した取組を進めます。

福井市の美しい景観や歴史的文化的遺産を守り育て、将来に伝えるため、これらをみんなの財産として認識し、整備や活用する取組を進めます。

このような取組を推進するため、次のような指標を設定し、全域で取組を進めます。

指 標	現状(H21年度)	将来(H27年度)	指標の選定理由
水辺と親しみ、ふれあう活動に取り組んでいる地区数 (水辺の生き物の生息環境の整備、ビオトープ※ ² の整備、水生生物の調査、水辺の緑化、魚の放流など)	34/49 地区	5年間で全地区(49地区)での取組を目指す	私たちの身近な水辺や緑と親しみ、ふれあう活動を市全域で進めるとともに、市民の環境意識の向上を図るための指標として選定する
緑と親しみ、ふれあう活動に取り組んでいる地区数 (植樹、花壇づくり、みどりのカーテン※ ³ 、里山の整備、公園の緑化活動、自然観察など)	49/49 地区	取組を継続していく	

※1 エコドライブ

自動車などを利用する際に、運転技術など誰でも実行できる手段で燃費を向上させようとする取組で、たとえばふんわりアクセルとかアイドリングストップなどがあります。クルマから排出される温室効果ガスを減らすことにつながります。

※2 ビオトープ

本来、生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間を示す言葉です。開発事業などによって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭などに造成された生物の生息環境空間を指して言う場合もあります。

※3 みどりのカーテン

つる性の植物を窓の外にはわせて日差しを和らげる自然のカーテンのことです。室温の上昇を抑えることで冷房の使用を抑制し、地球温暖化防止につながります。

(2) 全員が協力して、地球規模の環境問題に対応し、持続可能な社会づくりを進めていきます

地球規模の環境問題に対応するためには、低炭素型かつ資源循環型の社会への転換が重要です。

低炭素型社会への転換のためには、省エネの取組や再生可能エネルギーの導入が重要です。特に、福井市は、全国的に見ても移動時の自動車の利用率が高いことから、徒歩や自転車、公共交通機関を移動の中心とした、自動車に頼り過ぎないまちづくりを進めるとともに、エコドライブなどの省エネの取組を促進するなど温室効果ガスの低減に取り組み、低炭素型社会を目指します。

資源循環型社会への転換のためには、大量消費・大量廃棄の社会システムを見直し、生産から流通、消費、廃棄に至るあらゆる過程において、効率的な利用を進めるとともにごみの資源化に取り組みなど、資源の消費を抑制しごみとなるものを減らす取組が重要です。福井市はこのような考えのもと、発生抑制、再使用、再生利用といった3Rなどに取り組み、資源循環型社会を目指します。

このような取組を推進するため、次のような指標を設定し、全域で取組を進めます。

指標	現状 (H21 年度)	将来 (H27 年度)	指標の選定理由
福井市内における温室効果ガス総排出量	H2 年度比 18%増	H2 年度 レベル (± 0%)	地球温暖化防止に向けた様々な取組の推進状況を判断する指標として選定する
公共交通機関乗車人数	10,009 千人/年	10,200 千人/年	福井市は一世帯当たりの自動車保有台数が全国的にも高い水準にあることから、自動車から公共交通機関や自転車など環境にやさしい移動手段への転換を進めるための指標として選定する
自転車利用環境の整備状況 (公共交通機関への乗継拠点の駐輪場収容台数)	4,076 台	4,800 台	
1日1人当たりのごみの排出量	943 g	900 g ^{※1}	資源循環型社会を構築していくために、一人ひとりが身近に取り組める指標としてごみの排出量と資源化率を選定する
ごみの資源化率	14.4%	22.3% ^{※1}	

※1 福井市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成21年3月策定）と同数値

2 計画の体系

望ましい
環境像

取組の全体的な
方向性

取組を進めるための
基本的な考え方

みんなで協力して未来へつなぐ
環境にやさしい持続可能なまち・ふくい

1 福井市の自然や都市環境を守り育て、
将来に伝えていきます

2 地球規模の環境問題に対応していくため、
持続可能な社会づくりを進めていきます

3 全員が協力して、計画を推進していき
ます

1 全員が協力して、福井市の自然や都市環境
を守り育て、将来に伝えていきます

2 全員が協力して、地球規模の環境問題に対
応し、持続可能な社会づくりを進めていき
ます



	各主体の責務	各主体の取組の指針
	責 務	取組の指針
市民	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常生活に伴う様々な環境負荷の低減に努めるとともに、環境活動に取り組む ② 地域の一員として、他の主体の取組に参加・協力する ③ 行政が実施する環境に関する施策に協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常生活を見直し、環境負荷の低減に取り組む ② 環境活動に取り組み、より良い環境を創造する ③ 環境に関心を持ち、学び、理解を深める ④ 市民組織・事業者・行政の実施する環境活動に参加・協力する
市民組織	<ul style="list-style-type: none"> ① 組織の特徴を生かした環境活動に取り組む ② 組織活動に伴う様々な環境負荷の低減に努める ③ 地域の一員として、他の主体の取組に参加・協力する ④ 行政が実施する環境に関する施策に協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境活動に取り組み、より良い環境を創造する ② 組織活動を見直し、環境負荷の低減に取り組む ③ 環境に関する情報を把握・提供するとともに、啓発を進める ④ 構成員に対する環境学習を進める ⑤ 他の市民組織・事業者・行政と連携・協働して環境活動に取り組む
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境活動に取り組むとともに、環境に配慮した製品やサービスを提供する ② 事業活動に伴う様々な環境負荷の低減に努める ③ 地域の一員として、他の主体の取組に参加・協力する ④ 行政が実施する環境に関する施策に協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境と共生・調和したビジネスに取り組む ② 事業活動を見直し、環境負荷の低減に取り組む ③ 環境活動に取り組み、より良い環境を創造する ④ 環境に関する情報などの提供や啓発を進める ⑤ 従業員に対する環境学習を進める ⑥ 市民組織・他の事業者・行政と連携・協働して環境活動に取り組む
行政	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境に関する施策を総合的かつ計画的に実施するとともに、市民・市民組織・事業者の取組を促進するための仕組みづくりを進める ② 事業活動に伴う様々な環境負荷の低減に努める ③ 地域の一員として、他の主体の取組に参加・協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境にやさしいまちづくりに取り組む ② 事業活動を見直し、率先して環境負荷の低減に取り組む ③ 環境に関する情報を把握・提供するとともに、啓発を進める ④ 職員に対する環境学習を進める ⑤ 市民組織や事業者の実施する環境活動に参加・協力する ⑥ 市民・市民組織・事業者が実施する環境に関する取組を支援する ⑦ 市民組織・事業者・他の行政組織との連携・協働に向けた仕組みをつくる



